

施策No.	政策名	活力ある産業のまちづくり	主管課	商工観光課	主管課長名	鈴木 謙一
4-3	施策名	観光の振興	関係課	農林課、生涯学習課、都市整備課、企画課、ヤマザクラ課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
		桜川市に訪れる観光客	①1都、6県の人口	千人	見込値	43,285	43,385	43,485	43,585
	実績値				43,285	43,385			
					見込値				
					実績値				
目的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
	交流人口増によりにぎわいが生まれ、経済が活性化している。	①観光客入り込み客数	人	目標値	350,000	360,000	370,000	385,000	400,000
実績値				304,000					
②イベント来場者数		人	目標値	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	
			実績値	45,000	50,000				
③お土産品開発数(5カ年累計)		件	目標値	2	2	2	2	2	
			実績値	2	5				
④観光協会会員数		人	目標値	160	170	180	190	200	
			実績値	154	183				
			目標値						
			実績値						
成果指標設定の考え方	①観光客の動向 ②交流人口による地域のにぎわい ③経済への貢献度 ④観光に関心を持つ人材の発掘・育成								
成果指標の把握方法と算定式等	①茨城県観光客動態調査による数値(真壁のひなまつり、桜祭り、真壁祇園祭、みかん狩りを含む)とキャンプ場2カ所の利用者数 ②SAKURAフェスティバル、納涼大会、地域・市民主体によるイベント等の来場者数(岩瀬駅前夏祭り、かつたて祭り、十三夜祭、まかべ日和、秋さんば、森コミ市等) ③経済活動を意識した観光客向けお土産品の開発件数 ④観光協会の会員数								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	①真壁のひなまつりの観光客は減少傾向にあるが、ヤマザクラの観光客が増加しており、観光客入り込み数はほぼ横ばいに推移している。 ②つくば霞ヶ浦りんりんロードの活用など、広域連携による観光客の誘致が進んでいる。 ③製造業者による土産品開発も進み始めている。 ④市民主体によるイベントが多く開かれるようになり、観光まちづくりの機運が高まりつつある。		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①30年度の観光客入り込み客数は確定数が出ていないため空欄であるが、大きな増減はないため横ばいと判断した。 ②イベント来場者は目標値55,000人に対し実績値50,000人と目標値を下回った。市民主体のイベントは始まったばかりのものが多く今後の活動に期待したい。 ③お土産品開発件数は目標値2件に対し実績値5件であり、目標値を上回った。 ④観光協会会員数は目標値170人に対し実績値183人であり、目標値を上回った。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
<p>・30年度に貢献した事業は「上野沼やすらぎの里管理運営事業」「真壁のひなまつり支援事業」「観光協会運営支援事業」であった。</p> <p>・「上野沼やすらぎの里管理運営事業」は来場者数・収入金額が前年度より大幅に増え、憩いの場として人気を集めた。</p> <p>・「真壁のひなまつり支援事業」は観光客数はやや減少傾向にあるが、リピーターが多く高い評価を得ている。</p> <p>・「観光協会運営支援事業」は入会する会員が増加し、新たな人材の発掘や観光まちづくりの推進の一助となった。</p>	<p>・単なる観光客の増加を狙うのではなく、域内消費を意識した滞在型観光(体験ツアーやお土産品の開発など)への取り組みが必要である。</p> <p>・市民が主体となる観光まちづくりを進め、市民の観光への関心を高めていく必要がある。</p> <p>・ヤマザクラ55万本の里を市外にPRし、市の知名度アップを進めるとともに、新たな観光客の誘致を図る。</p>